

# 重金属

1年J科 北川 潤一

## ・はじめに

重金属と言っても、コバルトとかニッケルとかそういう類のものではなく、ヘヴィメタルという一つの音楽ジャンルのことである。ゲーム音楽にしか興味が無かった自分がメタルを聞き始めて早5年、何かと敬遠？されてるこのジャンルについて書いてみようと思う。なおバンド名は英字(日本語のものはそのまま)、アルバム名は「アルバム名」、曲名は“曲名”、人名その他はカタカナで表記した。また、バンドのジャンル分けには多少の主観が入ってるかもしれない。

## ・音楽性

そもそもヘヴィメタルとはどんなジャンルなのか。自分はメタルを聞く前は、「派手な格好をした人がうるさくて激しい曲を演奏するジャンル」だと思っていた。しかしこれには誤解がある(特に前半)。まずはメタルの普遍的な音楽性について書いてみる。

メタルで主に使われる楽器は、ギター(ディストーションをかけるのが普通)、ベース、ドラムであり、ここは一般的なロックとあまり変わらない。しかしギターは2人いることが多い。キーボードが加わることもある。また、バンドによっては民族楽器を使ってる場合もある。

全体の音としては低音が重視される。ギターやベースはチューニングを下げ、バスドラムは2つ用意して(ツーバス)左右の足で交互に継続的に叩くことが多い。ギターが2人いる時はそれぞれリズムとリードに分かれているか、両者が同じリフ(≒伴奏)を弾いてる場合がある。ベースはリズムギターのユニゾン弾くことが多いが、ソロを弾くこともある。というかドラムソロだってある。ギターソロはたいていの曲に入っており、2人ギターがいれば交互にソロを弾くということもよくある。なので歌や歌詞よりも演奏が重視されることが多く、かなりテクニカルな演奏をする人がたくさんいる。

テンポは速いものが多い。ポピュラー音楽が80~130bpmなのに対して、80~200以上となっている。逆に極端に遅い場合もある。また、うるさい曲ばかりなイメージがあるかもしれないが、静かな曲やバラードも多い。

## ・歌詞

メタルは悪魔や地獄、死について歌っていると思われてるかもしれないが、実際そうである。しかしそれが全てではない。むしろ歌詞の幅の広さから考えれば、これらはほんの一部に過ぎない。その他使われる歌詞のテーマには、戦争、社会、政治等の批判、哲学、文学、考古学、天文学、医学用語、神話、ファンタジー、SF、反宗教、吸血鬼……という具合にキリが無いくらい多い。これ以外にもたくさんある。が、滅茶苦茶早口で歌っていたり、普通の声で歌わないことも多いので、ネイティブでも聞き取れないことはよくある。そもそも演奏が重視される傾向が強いので、そんなに歌詞は重要とはいえない。

## ・容姿

派手な格好はしておらず、割とカジュアルである。レザーも昔はいたが、最近はほとんど見かけない。下記で挙げていくバンドを調べれば大体の容姿は分かる。

### ・産出国

北米とヨーロッパがかなり多い。その次に南米か。自分が聞くのは北米とヨーロッパがほとんどである。ちなみに邦楽は聞いてない。日本語とメタルの雰囲気はあまり合わない気がするのが主な理由である。というか聞き取れない方が幸せな歌詞も多い。

### ・サブジャンル

一口にヘヴィメタルと言っても、まるで音楽性の違う曲がたくさんある。メタルにはサブジャンルがたくさんあり、分け方によっては30を超える。主なものをいくつか紹介してみようと思う。ちなみに各ジャンルを厳密に分けるのはとても難しい。定義が曖昧なものが多いからである。

### ・正統派

サブジャンルを紹介と言ったが、正統派というジャンルが本当にあるわけではなく、便宜上ごく普通のメタルのことをそう言ってるだけである。Iron Maiden、Black Sabbath、Judas Priest、Acceptなどは正統派と言える。スピードメタルというジャンルもあるが、上記のようにジャンル分けが曖昧なものが多いので、正統派とあまり変わらないような気もする。Acceptはスピードメタルと言ってもいい。またドイツのGrave Diggerというバンドも、正統派のようなスピードメタルのような感じである。とにかく曖昧。

### ・スラッシュメタル

80年代に流行ったジャンルで、従来のヘヴィメタルをより激しく、速くしたジャンル。「スラッシュメタル＝速い」と思ってよい。ギターソロも速いが、スラッシュではソロよりもリフの方が重視される。複雑でかっこいいリフが多い。Metallica、Megadeth、Slayer、Anthraxというバンドは、スラッシュメタル四天王なんて呼ばれた時代もあった。しかし、90年代に入ってグランジ(音楽ジャンルの一つ)が流行ったことや、スラッシュの大御所だったMetallica、Megadethが正統派な音楽性に移行して商業的に大成功したこと等が原因で、人気は衰退した。Anthraxも普通のヘヴィメタルに途中から移行しており、四天王の中で今でも従来のスラッシュメタルをやっているのはSlayerだけである。他にもジャーマンスラッシュ三羽鳥とかいう「^^;」と思いたくなるような名前と呼ばれてるのがSodom、Destruction、Kreatorである。ジャーマンスラッシュなので全てドイツのバンドである。しかし四天王だとか三羽鳥だとかいう風に呼称されるあたり、スラッシュメタルはかなり人気があったジャンルなのかもしれない。「あった」とは言っても今でも新人のスラッシュメタルバンドは存在する。最近ではLazarus A. D. が有名か。

個人的にはベイエリアクランチが好きである。ベイエリアクランチとはサンフランシスコの湾岸地域で主に活動していたバンドの総称で、ザクザクしたギターサウンドが特徴である。この音とスラッシュメタルの複雑なリフがよく合っており、かっこいい。初期Testament、Laaz Rockit、Forbidden、Exodus等がベイエリアクランチである。

また、スラッシュメタルはヴォーカルがけっこう特徴的である。普通の声で歌ってるバンドは少ない(メタル自体普通の声で歌ってないと思われるかもしれない)。がなったり、吐き捨てるように歌うヴォーカルが多い。他にLaaz RockitやForbidden、Anthraxはハイトーンを使っている。Testamentはシャウ

トが多かった。がなりはSodom、吐き捨てはKreatorなど。

## ・ブラックメタル

ブラックメタルの音楽性はバンドによって様々だが、スラッシュメタルに影響を受けている部分もある。少なくとも歌詞は上記のような悪魔、地獄、他には反キリストが多い。ブラックメタルという名前はVenomが1982年に出した「Black Metal」というアルバムが元になっている。しかしこのアルバム中の曲と実際のブラックメタルの音楽性は異なるものである。歌詞のテーマは共通している。

ブラックメタルの主な音楽性は、まずギターが低音より高音が強調される。音もノイズっぽくチリチリした感じがする。リフはトレモロ(同じ、または複数の異なる高さの音を、交互に小刻みに弾く)で、不気味で陰鬱な雰囲気を出すためにわざと音質を悪くしたCDも多い。ベースはあまり目立たない。ドラムはブラストビート(主にバスとスネアを高速で叩くこと)が多用される。キーボードで寒々しく荘厳な雰囲気を出しているバンドも多い。ヴォーカルはがなり声や金切り声、悲鳴のような声もあり、メタルのジャンルの中では一番種類が多いかもしれない。また見た目も特徴的で、顔全体を白く、目の周りを黒く塗った「コープスペイント」をする人が多い。

という具合にブラックメタルはメタルの中でもアンダーグラウンドなジャンルである。中の人も教会に放火したり、本気で何かの儀式をする人がいて危ない。ブラックメタル自体は90年代前半にノルウェーで盛んになったが、ノルウェーでは別の意味で有名にもなっている。とはいえ、今は大分落ち着いた。ブラックメタルの思想や哲学の話は、最近1冊本が出たくらいの内容なので省略する。なお思想云々の故このジャンルに関しては歌詞は重要視される。ちなみに自分はそういうのには共感とかはしない。単にメタルの1ジャンルとして聞くだけである。

主なバンドはMayhem、Emperor、Burzum、Darkthroneなど。ベースは目立たないと言ったが、Mayhemの「De Mysteriis Dom Sathanas」のベースはかなり曲の雰囲気が出ている。ヴォーカルも呪詛っぽくて特徴的である。Emperorは、キーボードを使った荘厳な感じの曲が多い。この手の音楽はシンフォニックブラックメタルと言われる。Burzumは一人バンドで、中の人はおそらくブラックメタルで一番有名。アンビエント(音楽ジャンルの一つ)を取り入れているので、曲を聞いても退屈と思う人が多いかもしれない(その前にブラックなので一般受けしない)。Darkthroneは単調なリフで、さらに音質をわざと悪くしており、このような音楽性はプリミティブブラックメタルと呼ばれる。

他にもブルータルブラックメタルとか、ファストブラックメタルというジャンルもあるがそこまで細かく分けてどうするのか疑問。

## ・デスメタル

こちらもスラッシュからの影響を受けているジャンル。ちなみにデスメタルの影響を受けたブラックメタルのバンドも多い。ブラストビートはデスメタルで当たり前のように使われる技法である。

某漫画でデスメタルという言葉は、メタルを聞かない人の間にも少し浸透したかもしれない。しかし実際のデスメタルではメイクをしたバンドはいない。いや、どこかにいるかもしれないがいたとしてもそれは希少な存在である。

実際の音楽性は、複雑なギターリフ、手数が多いドラムが特徴的で、テンポが急に遅くなったり速くなったりすることも多い。なので展開が複雑なものも多く、演奏もテクニカルで全体的に上手い。特にドラマーは「なんで叩けるんだ」という域に達した人が多い。ギターとドラムが弾きまくり叩きまくりなせいでベース

はあまり目立ってないが、ベースもテクニカルなバンドはある(Cannibal CorpseやCryptopsy)。歌詞のテーマは死や殺人、暴力などが多い。しかしブラックメタルと違って何か思想があるわけではなく、歌詞も本気でそういう風に思っ歌っているというよりは、ほぼパフォーマンスに過ぎない。

デスメタルの中でも特徴的なのがヴォーカルである。日本ではデスポイスとかデス声とか言われるが、海外ではGrowl(グロウル)と呼ばれることが多い。ダミ声のようながなり声のような感じの声で、色々な種類がある(低音で唸るような声、嗚咽のような咆哮、湿ったようなすごい低音など)。発声法は自分はよくわからない。無理にそれっぽい声を出そうとすると、喉を痛めるそうなので注意。逆に普通の声をクリーンボイスということもある。

有名なバンドはフロリダに多い。Deicide、Morbid Angel、Obituaryなどがそうである。特にMorbid Angelは個人的に神バンドだと思っている。どんなテンポの曲もかっこよく、CD音源よりライブの方が演奏が上手い。Obituaryはデスメタルの中でもブラストビートをほとんど使ってなく(全然使ってないかも)、スローテンポの曲も多いので異色な感じがするが古参である。上で挙げたCannibal Corpseはデスメタルで一番売れてるバンドだが、素人にはお勧めできない。ジャケ的に。Cryptopsyはカナダのバンドで、ドラムが滅茶苦茶に速く、よく話題に上がる。他には古代エジプトを歌詞のテーマにした、Nileというバンドもいる。曲の雰囲気もエジプトっぽいがバンド自体はアメリカ出身である。テーマをちゃんと決めていても何言ってるか全然わからないのは仕様。というか普通に歌っていても聞き取るのは難しい。邦楽でも耳だけで何て歌ってるかわからないものはたくさんある。なので洋楽でリスニングの勉強ができると思ったら大間違いである(そもそも歌うのと普通にしゃべるのは全然違う)。単語を覚えることならいくらでも可能。ただしメタルでは実用的でない言葉もたくさん出てくる。

話が飛んだが、ブルータルデスメタル(ブルデス)というジャンルもある。いまいち普通のデスメタルとの違いがわからない。テクニカルデスメタルとかデスコアとかもあるけど、省略。

## ・グラインドコア

これは本来はハードコア・パンクのサブジャンルだが、デスメタルとの関連性が強いので書いておく。メタルのCDを専門に扱う店でも、グラインドコアのCDは普通に売っている。Napalm Deathというバンドが始祖で、「You Suffer」という曲が1.316秒しかなくギネスに載っているのは有名。グラインドコアは1分に満たない時間で終わる曲は多い。ドラムもブラストビートを多用しているものすごく速い。ギターもメタルのように重低音のものが多く、ノイズぽかったり適当に弾きまくってる感じのものもある。ヴォーカルはデスポイスで極端な低音か、叫ぶような声が多い。ベースは他の楽器に潰されてほとんど目立たない。ルーツがパンクなので、歌詞は政治や社会批判が基本的である。しかし曲の短さと演奏の激しさ、それに伴った曲全体のテンションの高さ故に、適当に声を出してるだけにしか聞こえないものがほとんど。実際グラインドコアのサブジャンルでは、歌詞が無く適当に叫んでるだけのバンドもある。サブジャンルについてはアレなものもあるので省略。

こんな感じでグラインドコアはメタルと深く関わりがある。代表的なバンドはNapalm Deathが一番だろう。「Scum」と「From Enslavement to Obliteration」の2つのアルバムを聞けば、グラインドコアがどんな音楽が大体分かる。他に有名なバンドはNasum、Brutal Truth、AxCxなど。自分はグラインドコアはあまり聞いてないので、詳しいことは言えない。ここまで極端な音楽性になると、ネタでしか聞けなくなってくる。あるいは単にそのアルバムが欲しいだけ。買うときは買う。CDを集めるのも好きなので。

ちなみにスラッシュやデス、グラインドコアなどのジャンルはエクストリームメタルと呼ばれることが多い。

## ・デスラッシュ

スラッシュメタルにデスメタルの要素を取り入れたジャンル。スラッシュの2ビートが基本で、デスのブラストビートが入る場合もある。ヴォーカルはデスボイスが普通である。デスメタルのように激しいものや(2ビート主体なのでデスメタルほどでは無いが)、メロデスのようにメロディを重視したバンドがある。ジャンルの線引きが曖昧なので明確な区別は難しい。デスメタルに近いバンドはThe Crown、Hatesphere、Terror 2000などがある。The Crownの「Deathrace King」は全体的にノリがよく、完成度も高いので強く勧めたい。Hatesphereはデスボイスの他にスクリーモっぽい声で歌うこともある。メロディを重視したバンドはDarkane、Dimension Zeroなどが代表的である。Dimension ZeroはIn Flamesのメンバーで結成したバンドなので、メロディ重視なのかもしれない。

## ・メロディックデスメタル

長いのでよくメロデスと略される。デスメタルに正統派のメロディを取り入れたもの、北欧のバンドに多く見られるメロディを重視したスタイルに、デスボイスを使ったものの2つの解釈がある。これもまた曖昧だが、個人的には「叙情的で、激しさを抑えて聞きやすくなったデスメタル」という感じがする。キーボードを使ったバンドが多い。ブラックのような荘厳さではなく、北欧の寒さや冷たさを表現している。有名なバンドは、フィンランドやスウェーデンに集中している。フィンランドでは初期Amorphis、Children of Bodom、Kalmah、スウェーデンではArch Enemy、At the Gates、In Flames、Dark Tranquillityなどが特に有名である。Children of BodomやArch Enemyは、中高生にけっこう人気がある。特にArch Enemyは、今は女性ヴォーカルという点でも有名である。個人的にKalmahのクサイメロディと、Scar Symmetryのシリアスな感じの曲はお勧め。その他イギリスのCarcassも有名。

## ・フォークメタル

メタルに民族音楽を取り入れたジャンル。そのためこのジャンルでは様々な民族楽器が使われている。歌詞も神話や民謡に関するものが多い。音楽性は様々、というか民族音楽を取り入れてるので明確な定義は無い。自分が聞いた中ではブラックやメロデスの影響を受けたバンドが多い。ブラストビートやデスボイスがあるのに、音は民族音楽なのでメタルの中でも面白いジャンルだと思う。しかし大して聞いてない。有名なのはKorpiklaani、Eluveitie、Finntroll、Bal-Sagoth、Turisasなど。全体的にクサイ。Bal-Sagothはイントロで笑った。Eluveitieはメンバーが8人で、民族音楽使いまわりのバンドである。メロデスに分類されることもある。最近ではAlestormというバンドの人気が出てきたが、海賊を意識した歌詞とメロディでなかなか面白い。

## ・メロディックスピードメタル

長いのでメロスピと略される。似たようなジャンルにメロディックパワーメタル(メロパワ)というものがあるが、スピードかパワーかの違いである。海外ではこの手のジャンルは「パワーメタル」でまとめられている。ここではメロスピについて解説する。

叙情的でわかりやすくクサイメロディ、ハイトーンのヴォーカル、疾走感のあるリフ、速弾きでメロディアスなギターソロなどが特徴である。そのメロディのクサさからクサメタルと言われることもある。とりあえずクサイ。歌詞もクサイ。日本語で歌ったら恥ずかしいこと極まりないだろう。しかしメタルの中ではとても聞きや

すいので、初心者に勧めるにはうってつけのジャンルでもある。日本では人気のあるジャンルなので、なおさらである。主なバンドを挙げるとキリが無い。ルーツになっているのはHelloweenやAngraだろうか。しかし両者とも、メロスピという1つのジャンルで括れる音楽性では無いと思う。Dragonforce、Heavenly、Sonata Arcticaあたりはメロスピといってもよいだろう。Dragonforceはメロスピが不人気なアメリカでもけっこう人気がある。日本でも大人気。いろんな意味で、この中なら、Sonata Arcticaが北欧の冷たい雰囲気音を表現してお勧め。ちなみに自分は北欧っぽさを表現したバンドは基本的に好きである。曲の恥ずかしさ的にはDragonforceとHeavenlyを推す。

#### ・シンフォニックメタル

シンセサイザーでオーケストラのような雰囲気を出したり、ヴォーカルに合唱やオペラを使っているジャンル。それ故壮大な雰囲気の曲が多い。メロスピに近い部分があるので、初心者でも聞きやすいだろう。Blind Guardian、Nightwish、Rhapsody of Fireなどが有名である。Nightwishは女性ヴォーカルでオペラのような曲が多い。というか声がオペラっぽい。Rhapsody of Fireは1つのファンタジーな物語を作って、それを曲にするという前代未聞なことをやっている。1枚のコンセプトアルバムかと思いきや、アルバム5枚に渡る話を作っている。中でも“Emerald Sword”という曲はすごく人気がある。歌詞や曲の雰囲気はタイトルから十分察することが可能。

#### ・ネオクラシカルメタル

これも長いのでネオクラと略される。クラシックのようなコード進行と、速弾きのギターが主な特徴である。実際のクラシック音楽のフレーズを入れることもあるらしい。メタルの中でもけっこうまとまなジャンルな気がする。音楽的知識が無いと、定義をあまり理解できないジャンルでもある。かくいう自分も、あまり理解してない。その立場からこのジャンルの曲を聞くと、「ギターが上手い」くらいにしか思えない。演奏のレベルは全体的に高い。キーボードの雰囲気なんかは、言われてみればクラシックっぽいかもしれない。

イングヴェイ・マルムスティーンがネオクラで一番有名な人物である。というかネオクラを開拓した本人である。様々な迷言も有名。他にはSymphony Xやトニー・マカパインが有名。正直、このジャンルはほとんど聞いてない。聞きやすいと思う。

#### ・プログレッシブメタル

プログレロックがメタルになったジャンル。長い曲、変拍子、転調、コンセプトアルバムが特徴。演奏が長いものが多い。曲展開も複雑なので、演奏技術はデスメタルやネオクラと並んでかなり高い。一番有名なのはDream Theaterである。「Images and Words」を聞けば、プログレメタルがどんな感じが分かる。また、ネオクラで挙げたSymphony Xは、こちらに分類されることもある。その他デスメタルと合わせた、プログレッシブデスメタルというジャンルもある。こちらはOpethやMeshuggahが有名である。特にMeshuggahは、個人的に好きなバンドの1つである。かなり複雑で聞いてて面白い。音楽的に変態なバンドである。しかし最も変態なのは、Spiral Architectというバンド。こちらは普通のプログレメタルだが、曲として成立してるのがすごいくらいの変態である。93年から活動してるのに、2000年に1枚アルバムを出しただけという謎なバンドでもある。

## ・おわりに

今回書きたかったのは、メタルのサブジャンルの多さである。他のジャンルでもそうかもしれないが、1曲聞いただけではメタルという音楽は理解できない。ブラックやデスを聞いた人と、メロスピやシンフォニックを聞いた人では、メタルに対する印象は大きく変わるだろう。もっと書きたいことはあるが、会誌の内容にはふさわしくないものがあるし、なにより全体の量が多い。サブジャンルだってゴシックは名前だけ出して音楽性は省略したし、他にもインダストリアル、メタルコア、ニューメタルなど色々ある。重要な話もかなり省いている。自分もすべてのジャンルを聞いたわけではないので、書くに書けないものもある。この文章を読んで、メタルに興味を持ってもらえると幸いである。もっとも、最後まで全部読んだ人がいるかはわからないが……。他にネタも無く、一度こういうのを書いてみたかったので、ほとんど自己満足な感じになってしまった。

そういえば“初音ミクの消失”の最後にブラストビートが使われていたのには驚いた。東方のメタルアレンジでも、既存のメタルの曲のメロディやリフが使われていたりする。こういう時は少し嬉しいと思う。ただそれだけ。